



笠縫学区ホームページ
<http://www.machikyou.jp/kasanui/>
 発行：笠縫学区まちづくり協議会

連絡先：笠縫まちづくりセンター
 TEL・FAX562-0071
 Eメール：kasanui@machikyou.jp

笠縫学区（1月31日現在）
 男性 5399人 女性 5700人
 世帯数 4706世帯



**誰一人取り残さないために！
初の防災実働訓練を実施**

二月二十一日（日）に笠縫学区全24町内会および学区災害対策本部（災对本部）17名の参加のもと、防災実働訓練「被害状況報告訓練」が実施されました。

これは、昨年度に策定した「笠縫学区地区防災計画」に基づいて、災害（今回は地震）発生時の初動期に、町内会や災对本部の役割が有効に機能するかを検証するため、初めて実施しました。

午前9時、草津市内で震度6強の地震が発生したとの想定で訓練開始。地震発生後、各町内会は、すみやかに一次集合場所へ向かい、被害状況と安否確認、応援要請の要否判断を行いました。

一方、防災対策委員会のメンバーは、災对本部を立ち上げる旨を一次集合場所で報告後、まちづくりセンターへ駆け付け、大会議室で「学区災害対策本部」の設置を開始、午前9時15分、竹村まち協会長が災对本部設置を宣言しました。

その頃、被害状況等の確認を終えた町内会は、統一様式の「被害状況報告書」に記入、災对本部へ報告を始めました。

今回は通信系統は無事という設定で、電話・FAX・メール・直接参加の4つの方法を自由選択方式で行いました。

災对本部は、24町内会から刻々とあがってくる被害状況報告書を受け取り、各種情報を「状況



その頃、被害状況等の確認を終えた町内会は、統一様式の「被害状況報告書」に記入、災对本部へ報告を始めました。

今回は通信系統は無事という設定で、電話・FAX・メール・直接参加の4つの方法を自由選択方式で行いました。

災对本部は、24町内会から刻々とあがってくる被害状況報告書を受け取り、各種情報を「状況

「一覧表」と「学区地図」に落とし込んで状況を分析、被害の少なかった町内会に、被害のあった町内会へ応援出動を要請しました。応援出動者から、応援作業の終了報告をもって訓練は終了しました。（3面へ続きます）



地域サロン交流会を開催

地域福祉部会

2月9日（火）まちづくりセンターにおいて、地域サロン17団体のうち、代表者15名の参加で地域サロン交流会を開催しました。

最初に、市地域保健課の保健師さんから、高齢者を取り巻く環境についてお話いただきました。

当学区では、認知症や寝たきり、一人暮らしの高齢者が増加しており、こうした中、引きこもりを防ぐきっかけづくりとして、地域サロンが始められた経緯が紹介されました。



また、昨今のコロナによる外出機会の減少は、体力低下につながるため、①ご飯はよく噛んで食べる ②間食は乳製品やチーズなどを摂取する ③日常生活の中で、こまめに体を動かして、体力が衰えないよう気を付ける の3点が重要とのことでした。

そして、コロナなどのウイルス感染の防止には、食事前や外出後にはこまめな手洗いを行うという、やはり基本が大切であるとのことのお話を聞きました。

続いて、市社会福祉協議会の方を講師として、クリアファイルでマスクケース作りを体験しました。

参加者からは、「コロナでマスクを持って回るので、これは重宝する」「個々の地域サロンでも取り組んでみたい」という声をいただきました。



意見交流会では、今年度はコロナ禍で地域サロンが思うように活動ができなかったところが多く見受けられました。

また、認知症予防（頭の体操）のビデオを、市や市の社会福祉協議会で作成してほしいという声がありました。



ありました。

今回、コロナの感染者の増加や、国の緊急事態宣言が延長される中ではありましたが、3密の感染対策や時間短縮など工夫しながら開催でき、お互いの地域サロンの情報交換が出来てよかったと感じました。

あなたの手で作ってみませんか？

リーフかさぬい 制作メンバー募集！

学区広報紙「リーフかさぬい」は、2008年（平成20年）10月の創刊以来、4月で創刊150号を迎えます。

次の200号、250号へとつなげる制作メンバーを募集します！ピンポイントでの参加も歓迎です！

あなたの得意分野を活かして次の「リーフかさぬい」を一緒に作ってみませんか？

募集分野

- 地域情報の提供
- 企画・取材・記事作成
- 写真・イラスト
- 紙面編集（使用ソフト：Microsoft Publisher）

●お気軽にお問い合わせください！●

☎ 077-562-0071

✉ kasanui@machikyou.jp

笠縫学区まちづくり協議会 事務局
（笠縫まちづくりセンター内）

リーフかさぬいの発行日が変わります

学区広報紙「リーフかさぬい」は、毎月15日発行としていましたが、令和3年4月より、毎月1日発行に変更いたします。

移動図書館「わかかさ号」の巡回予定

4月から巡回回数と時間に変更になります

令和3年度は、下記の予定で笠縫まちづくりセンターに移動図書館車「わかかさ号」が巡回します。どうぞご利用ください。



《巡回日程》
毎月第1金曜日
16:00～16:30



第1金曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	2	7	4	2	6	3

※借りられる期間は、次の巡回日までです。

今後の予定（3月15日～3月31日）

※記事作成時点での予定です。新型コロナウイルスの感染状況により、変更になる可能性があります。

3/26（金） まちづくり協議会 運営委員会

～被害状況報告訓練～
情報共有の重要性を再認識
 見えた課題を次の訓練に活かす

今回は、初の実働訓練であることから、事前にシナリオを作成した中での実施でしたが、それでも様々な課題も見えました。

訓練終了後の意見交換会では、統括副本部長から「シナリオどおりで、今回はスムーズに進んだと思うが、実際の場合、本部に駆け付けられるだろうか？また、被害の町内会から応援要請が多くなれば、判断も難しく、対応できるだろうか？」などの感想がありました。

町内会からは「町内会の安否確認をどのようにしたらよいのか」との課題もありました。

今回の訓練にあたり、守山市吉身学区から6名の見学とNHK大阪放送局の取材がありました。吉身学区からは「行動の基本を学んだ」「シナリオにはない想定外の訓練内容を組み入れても良いのでは」「今後も笠縫学区と交流できればと思う」などの感想をもらいました。

最後に、コーディネーターの石原凌河先生（龍谷大学准教授）より、「災対本部の重要な点は、『情報を共有する』ということ、見えた課題を次の訓練に活かして、より良い地区防災計画を作っていただきたい」とのことでした。

今回は、コロナ禍により、参加対象を限定しましたが、参加いただいた町内会長をはじめ、各町内会の皆さんありがとうございました。

今回の訓練を糧に、さらに訓練を繰り返し、学区の災害対策の取り組みを推進していきますので、学区住民の皆さまのご支援とご協力をお願いします。

■ 当日の災害対策本部の動き ■



一次集合場所での町内会への報告



竹村会長による災対本部設置宣言



【情報収集班】…電話や直接持参等による全町内会からの被害状況報告を受けました



【応援調整班】…副本部長の指示のもと、応援要請の再確認や応援要請を町内会に発信しました



【本部長・副本部長】…全町内会の被害状況を把握し、応援調整班に指示を出しました

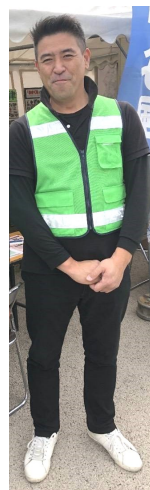


【意見交換会】…訓練終了後、町内会長も参加して、石原先生の司会進行で意見交換を行いました



NHKのWebサイトで
 当日の訓練の様子を
 見ることができます

<https://www.nhk.or.jp/osaka-blog/omi630/bousai/444238.html>



笠縫学区まちづくり協議会子ども育成部会長の山元亮太さんが、致死的な不整脈の疑いにより、二月十四日に急逝されました。四七歳でした。

山元さんは、平成三〇年から子ども育成部会長、令和二年からは笠縫学区主任児童委員も務められていました。当協議会の事業をはじめ、とりわけ子どもの見守りや健全育成、児童福祉に日々奔走されました。明るく誠実で行動力のある人柄は誰からも親しまれ、当協議会としても頼りにしていただいていたところでした。

謹んでお礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。



山元亮太さんが
 ご逝去されました

訃報

笠縫小学校1年生・昔あそび

令和三年二月八日十時三十五分から、お話しの中の教室に1年生2クラスが集まり、生徒2人のかけ声で昔あそびが始まりました。



民生児童委員を初めとする協力者を紹介し、先生が昔あそびの注意事項を発表しました。
あや取りとお手玉の組は、担当のメンバーと一緒に教室に戻りました。
お話しの間では、教室の中央にテープを貼り、コマ回しの組と、けん玉の組に分かれました。
コマ回しは危ないので、コマに紐をまくところ、コマを回すため投げるところと、場所が指定されました。
あや取りの目標は手首抜き、ゴム、ほうき。お



けん玉の目標は2つの玉で連続して投げ続けること。けん玉は大皿載せ、小皿載せ、止めけん。コマの目標は、回すこと、犬の散歩です。

お手玉では、両手にお手玉を持って、右手のお手玉を頭の高さまで放り上げ、左手のお手玉を右手に移動する。これを繰り返す。だんだん高さを低くしてテンポを早くする。
コマ回しでは、3人で競争する様子も見られました。



後日、センターに感想文が届きました。
「あやとりをおしえてくださってありがとうございました。」
「コマをじょうずにまわせました。ありがとうございました。」
「お手玉ができるようになりました。ありがとうございました。」
「けん玉のやりかたをおしえてくれて、ありがとうございました。」



「ありがとうございました。」等々。

